

稲沢市一色天神遺跡だより

令和6年10月17日発行

(公財)愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

第1号 「発掘調査が始まりました」

本年度の発掘調査が始まりました。調査についての概要は以下の通りです。

- ・事業名：いなざわ特別支援学校校舎建築工事
- ・調査予定期間：令和6年9月17日～12月27日
- ・調査している位置：稲沢市一色森山町225（いなざわ特別支援学校敷地内南西部）
- ・調査主体：公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
- ・調査監理：愛知県埋蔵文化財調査センター
- ・支援組織：株式会社 島田組
- ・遺跡の時代：弥生時代・中世（鎌倉時代～室町時代）

これまでにわかったこと

今回の調査を行っている遺跡はいなざわ特別支援学校の西側（一色下方町）から学校敷地内南西部（一色森山町）に位置しており、日光川（左岸）と三宅川（右岸）にはさまれた沖積低地にあります。

周辺の遺跡としては、東方数百メートルの日光川上流浄化センター工事に際して発掘調査した一色青海遺跡（弥生時代中期の拠点集落）、北方約1キロメートルには、（片原）一色城跡があります。

明治17年（1884年）の片原一色村地籍図には遺跡の中心部に上天神・天神・下天神の字名があり、遺跡名はこの字名を取ってつけられたようです。地籍図からは、この付近が島畑と水田が入り混じった地域であることがわかります。

今回の調査区は一色天神遺跡の東端に位置しており、Aa区・Ab区・B区に区分して調査を進めていきます。現在掘削しているところはAa区です。Ab区は今後調査し、B区は既に調査が終了しています。地層を観察すると、上層から整地土、旧平和高校（1979年～2007年）の構造物を壊した後の攪乱土層、近世以降田畑の層、中世の包含層、弥生時代の層、基盤層（細粒砂層）に分かれます。付近の河川の氾濫原となっており、弥生時代の層の上は、中世から近世の河川氾濫の土砂が幾度にもわたって堆積した様子がわかります。中世の遺物はその堆積土に混ざって、あるいは、一時期に遺構を形成したときに放棄したものが見られます。

10月26日（土）11時～ 地元説明会を予定していますので、ご参加お待ちしております。

*詳しくは（公財）愛知県教育・スポーツ振興財団埋蔵文化財センターのHPにてまたご案内します

<http://www.maibun.com>



24Aa区トレンチ掘削作業風景